

こんにちは。

(一財)生涯学習開発財団認定プロフェッショナル・コーチの長井です。

今日は京都では五山の送り火です。お盆休みという方も多いのではないのでしょうか。ゆっくり休んでリフレッシュして月曜日をお迎え頂ければと思います。

管理職になりたくないという若者が増えているという記事がしばしばネットを賑わせます。そういう声にどう対応していいのか困っているという話を実際にお聞きすることも少なくありません。グループ長等ビジネスの前線でマネジメントに当たっている方は広範囲の業務を担当され、マネジメントをしながらプレイヤーとしての役割も求められたり、結果責任も問われる立場で、大変なご苦勞をされていることと思います。そういう中でマネージャー自身に疲弊感がにじみ出るのも無理はないと思いますし、そういう姿を見た若手社員たちが「自分には無理」と思ってしまうというもうなづけるところがあります。こうした事態を重く見た会社側が、管理職の責務を軽減させる動きに出ているようです。あるいは、マネージャー自身ももっとイキイキと働けるようにマネージャー教育を再構築している会社もあるでしょう。

先日「あなた自身は自分がマネージャーの立場にあることをどう思いますか？」という会話をするがありました。忙しい、しんどい、楽になりたい。でも、やりがいも感じている。そんなふうに話があちこちへ飛んでいく中で、最終的に、「職場メンバーのAさんが嬉しければ自分も嬉しくなるし、Bさんが感じているオモロさは自分のオモロさであり、Cさんの達成感は自分の達成感だ。こう捉えることで、単なる一プレイヤーでは感じられないいろんな人のたくさんの喜びを味わえる」という話に至ったことがありました。とてもステキな気づきだなあと、お聞きしている私も嬉しくなりました。

一方、若手社員からの「エラくなくていいんです。給料がそこそこ貰えてればそれでいいんです」という声に接して困っているという話もしばしばお聞きします。「本人がそう言うんだからしょうがない」と途方に暮れた感じでおっしゃるのですが、そもそもその本人はどこまで本気で言っているのでしょうか。たとえばそんな気持ちで10年務めたとすれば、間違いなく一生懸命頑張っている同年代の社員とは差がついてきます。気がつけば同期入社の中で一番出世が遅く、年若の後輩が上司になってしまうかもしれません。そうなってくると、周りの自分への評価とか扱いもそれに応じたことになってきます。最低でも朝9時から夕方17時まで週5日過ごす場所がそんな感じになって、それでも機嫌よく日々を過ごしていけるのでしょうか。さらにはクサクサした気持ちが会社だけではなく家でも出てしまうことも十分ありえます。こうなると家族との間もいい関係にはならなくなってくるでしょう。そういう自分の未来を具体的に見させることが必要なのではないでしょうか。

たぶん、「本人が言っているから」ということだけでそのまま受け止めずに、「それってどういうことなの？」「そのままだとどうなると思う？」というように話を深めてみると景色が一変することは他にもよくあるようにも思います。

昭和の時代より価値観が多様化している分、令和に生きる人たちの選択肢は昔より難しくなっていると思います。だからこそ、点検したり掘り下げたりということが必要なのでしょう。みなさんが少しでも自分らしく納得の行く選択をされる一助となれば大変幸甚だと思っております。

(一財)生涯学習開発財団認定プロフェッショナル・コーチ 長井 克之

Website : <https://www.koko-ichi.com/>

情報発信: <https://note.com/nagaib61s83>

ご連絡先: nagaib21@koko-ichi.com 080-9831-8316

◆ここいち便りは著作物です。ご友人・ご家族・ご同僚・知人の方等への転送は歓迎です。その際はメール丸ごとの形で転送してください。出元を明らかにしない形での一部または全部のコピー・転載はなさないようお願い致します。